

明治四十四年元月二日一千九百一十一年
 本紙 一校金二千五百元 一月七日前金廿號
 定價 金三圓八十元 九月十日前金廿六號
 金三圓八十元 郵稅金廿六號
 月曜日及大祭日の翌日より休刊（日一回）
 廣告 五十枚以上者報例特別十五號活
 料金 五十元 五十元 五十元 五十元 五十元
 發行編輯人 松高木久神一郎
 印刷編輯人 松高木久神一郎
 京城西番西小門通（電話六六三）
 發行所 京城新報社

●實業の世界（八卷一號）社説、新年を機として此の一問題を提供す、福澤雄介氏の愚案（物語）、即孫政之功臣桂内

有るの財政計畫を詳考し、新嘉坡市左衛門氏の
 返田豊國銀行専務の張煥成一役の心あり
 閣前代議士の捨てた天氣で拾つて居る
 の讀者が他附載として、は指染主義の居
 下名七餘名の論說、其他愛多姆の好動物の
 (十一) 銀果、芝園、其愛多姆實の世也
 (壯)

●滿鐵之實業(六十一號) 市原輝銀納
 茲の本年の朝鮮經濟界 宇佐川維義の

東拓の根本方針、東拓の移住民、實業より見たる黒龍江省の價值、滿洲の商業その他數十の實業に關する有益の中興富なり（二十五號京城大和町實業協會）

山中鹿之助



第五十回 西昆麟慶

も叶はず、只に首を左右に振振り、手を擧げて見、此處を引退せよと云ふが如く其儘息絶へた。此處老蓮の死都罷り手掛させ、心外なり、幸ひ是る新を信上げ死骸の中に入れて、四方へ火を申さし、直九市街の手を取、腰元を連れて其より外へ出され、然らば此兩人の跡も其の山路を如何にして思や歩はれやうか、暇ぞつては大事と思ひ折れども、其處に大きな巖あり、其から、其身に大なる穴あり、此の隙が香負良千式ヶ谷を望んで来る、此千式ヶ谷は皆家より墓手に當つて通べき道にあらず、下を見るに霞で覆はれるが川に渡らん、聞へず遙かに見るに百姓の布を懸たるかと思ふばかりの瀧、石より十餘段、巖高く様々の

京城居留民團告示第四十五號
明治四十四年三月三十一日京城居留氏
明國駐京公使館同前於壬午年十二月廿六日
諸氏京城居留氏同前於壬午年十二月廿六日
明年四月三十日

京城居留
民團長
古城營堂

廣告

奉天明治四十四年一月四日、乃連浩古
市町運に在記車庫停留所を設置致すに
可連年候也
市町問路電車停留所
建築所前、金町通、外國銀行
外、西大路、吉町、右市分枝點
車不發候に御求知相度候に於
明治四十一年十二月

謹賀新年

日韓瓦斯電氣株式株

併謝平素疎遠

大木あり、是を持來りししたる邊より、鐵索をかけ、兩人に對つて、必す予服を離し、事は無用なり、と云ふ必す二人は服を閉ぢ、手に手を取て段々と繰下され、事百四十五段にして下へ着ましたら、其繩を枝に絡めて、自分も繩を傳はつて下へ下り来りました、二人も喜び、夫より斜めの九九折を下りて行くと、此方は大江山の虎丸が手下の者ども、右衛門之助の住居より火

病氣保養の爲め旅行に付年禮と總て缺如す

皆川廣濟

瓦斯コークス販賣

戶叶薰雄

希福來月交誼
明治四十四年一月
栃木縣佐野町

が出まされた。夫れ水事より
古猿之助は、見へず、二人の女も居りません依て此事を虎丸に注進をする。虎丸人に驚き、虎ざれば嵐と叫つて古猿之助の二人を運て此の岩峯を落したと見え、併し其は他にならず、皆早く配りて、下知の下、拵さるゝ等するど手下の者三、來りまして「お、是は表に所せられた、古猿之助は表を見え裏山から相違ない處

質屋 京橋路矢富 御橋路矢富

酒井組 電話 二四九番

◎貸金 組事務所一五例街 高橋 有給者にて極秘密に低利融通可申候

質屋 京橋本町二丁目三番元黒澤 近古銀貨の確保低利資金蔵 質買 宮内金藏 京橋支店

大引割
寫眞器
 國解目録都
 券四種右
 交換
 升致
 東京神田區根町(大通)
東京寫眞館
 (電話下合六八八)

恭賀新年

一佛國
一英國
右多數貯藏致居候間御注文願上候

レロイ社製壁紙各種
ランカスター無地リノリウム
エルロンドン商會

京城

明治四十四年一月

吉岡信太郎

電話九九五番

[illegible]

希福來卯交誼
明治四十四年二月
栃木縣佐野町
戸叶薰雄
病氣保養の爲め旅
行に付年禮と總て
缺如す
皆川廣濟
瓦斯コークス販賣

酒井組

東京市本町三丁目支度部官舎向
電話 一四九番

○貸金 取組二五利附 高橋
有給者にて極秘密に低利融通可申候

京城本店 小町二丁目三番元黒澤
臨時購買の確保低利資金融通
品質第一 宮永金蔵

質 京城支店 小町二丁目支度部官舎向

解目藏野
 四隣新古
 交換
 升致

東京神田區籠町(大連)
 東京寫眞館
 (電話下谷六八)

隨入院
 京越前小門通六番戶
 菅 醫 院
 電話三一五番

質
 摺見質店
 堀町二丁目府藏裏路曲突き

電話 九九五番
岡信太郎
商會
無地リノリウム
御注文願上候
社製壁紙各種

-9-

●年頭の長官會議

天皇皇后兩陛下の萬歲と三唱し更に東上したるが其後到着したる電報に依

に於ては開進亭機葉等其の主なる補者數五十名を現出す可と以て兩三日

森田常勝

大塚式場
株直同
同株同

四三二〇
一四二〇
一四二〇

、廿未

開國以來帝德新、鮮人相競拜紫

（八田）を以て大々

移轉廣告

城黃金町六十三統十戶
實業界朝總支社
 電話五〇四號 小谷忠治郎
 市川祐雄
 中區新發街七十五統三十四戶

進物しんぶつなるらん

の便あり停車場近く朝市場一丁斗
經濟向き家賃率先引下たり

太郎
と早齋とてある。

敬具

ふ者だ、兎角職員には不感服のもの多
く過日も定乗學生に對し日曜日に乗車

野
威

泣かしめたる不埒の出札

要する四ヶ條……三輪田眞佐子
 悲しむべき現象……西田敬止
 妻の務可本博士夫人
 河番

少數の乗客を拉して靜かに發車せる後

長持を
 婦人會合
 野淵太郎
 移の料
 社

驛前エキマエに不フ亭テイ車シャ

自ら施し得る**美顔法**
(京東)
(番四)

不都合なる電車よ

4

▲札の並べ方

10

1

1

恭

りあつちし博を迎驛の大多に嬢令士紳の外内

三町山債區橋本町京東

實業之日本婦人世界

五大雜誌新年號は例年多少減送せられ、増刷致候へ共本年は意外の盛況にて全國各書店よりの注文に應じ切れず直に再版に着手致候。此の爲地方書店に對しては多少の不便無之様本社に多少の誠意を致す毒に存じ、形勢に近日中再版出來と同時に追送可致尙覺け、大に恩知に依り、増刷致候。

大波瀾 大浦 義一
失敗 大浦 義一
成功 大浦 義一
實業家調へ (興味百出)

世界大傑作

[illegible]

初夢の說 新渡戸博士
 腹に時 腹に時
 體量五貫 貫付知
 名士記憶法實驗
 余が事物觀察法
 雪月花に譬へた三人男
 學校代行業社
 一番とビリの卒業成績
 青春活力持續法
 大隈伯

一巻
 郵に
 税
 五拾
 銭
 金
 銀

◎正月の子供の遊びと食物の注意……加藤博士
 ◎家庭の人としての新島襄先生の平生……新島未亡人
 ▲女學校^{卒業生}實^生役^立たれぬか
 (下田女史は本誌より毎號本誌に執筆さるゝことなれり)
 ◎九十年前の私の嫁入姿……何事夫人
 池田松子

◎未婚の男女は如何に配偶者を選ぶか
女子商業 嘉穂 孝子
村井 弦齊

▲人情論(男女必讀)
村井 弦齊

◎わかめとれ多福の先祖は誰か
早稲田 武田豊四郎
大學講師

新家庭旅行
附錄
日本名所双六

常盤御前論
 山田春子
 三松園元道
 富田重剛
 宮田 脩
 鈴木光愛
 西田敬止
 佐治 哲然
 奈良原總之
 飛機發明も助けた妻の苦心
 吉岡操博士
 米國から日本へ新婚旅行
 代議士令息
 森久保嘉太郎

四拾冊 前七冊 共五冊 郵費在內
 ④ 婦人の最も心得べき手紙の書き方 女子師範 渡邊 白
 ⑤ 身に渡る母の一言 読見花子 山陽婦人 三輪 三
 ⑥ 誰にも出なれる餅の才理 田原佐子 矢島操子
 ⑦ 東京の各女学校門外觀 笠薮夫人 村井 多喜
 ⑧ 家庭衛生談 村井菰薮 ⑨ 髪の毛の洗ひ方 千 里
 女髮結 戸根愛子

日本少年

東郷大將 は東郷の人 大體帶大佐
 生涯中一番怖かつた父の叱責 の滑稽な失敗 知此記
 少時父に代りて大名を激論す 男爵 男爵 男爵
 斯くして臆病者も大膽となる 長學博士 新渡戸稲造

▲南極飛行機双六
探検 飛 行 機 双 六
はれ最新案の双六に就ては倫敦、巴里、紐育、東京の四個所より互ひに競争しつつ南極へ向ふ途中暴風あり、墜落あり、千變萬化興味百出快盡き

日本少年誌友會
 無禮漢を斬る
 旗艦大海戦を目撃す
 伊知地
 中將佐藤大
 山千代雄
 伊東祐草
 伊東祐草

少女の友

附 **▲新年の心**
 厄く悪者の手にとりて助けられた辨内侍
 下田歌子女史
 品題は、毎箇光陰難たれし小
 品鑑定、日本橋城小學校校長 山邊
 聖校教師 渡邊白木知之
新案
およばれ双六

振り出しは門外せ一は玄關より入り、一は庭口より廻る珍趣向にして早く食堂に着いたのが勝ちとなる

◎兄を抱き馬に乗つて戦争 鈴屋 花子
新式手提け袋の編み方 磯村 春子

▲小ね伽噺
▲説

興野品子
岩下小波
星見 茉莉
月見 菊子

動物の名前を呼ぶ声

幼年の友

文學博士 芳

○美麗なる繪畫と面白き伽噺を以て全紙を埋む
故に全國の児童は争うてこれを歡迎す

新年大付録は一面面ともなり

五十九銭
一年十二
四十銭

繪も話も教育の具にして趣味に富む
●故に三歳以上十歳の^{以下}子供は玩具や菓子より之を悦ぶ
新年ノ附録に^{玩具などもなり懸賞などもなる}

店書地各國全捌賣 六三〇貯振 番二座金替 社本日之業實 八七五番 京電 南東 所行發
町紺橋 京